

地域住民の協力による道路の維持管理について

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

1. はじめに

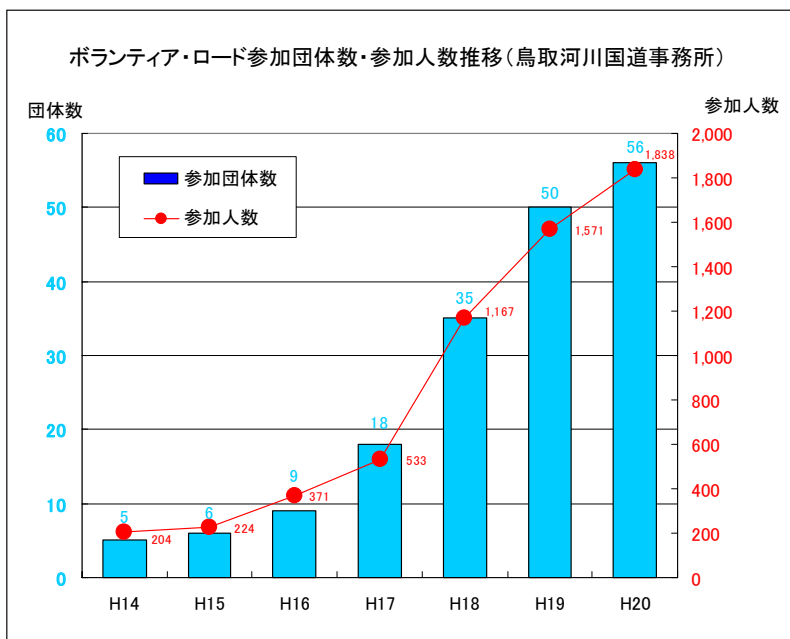
近年、特に阪神淡路大震災以降、ボランティア活動に対する国民の注目度は増しており、企業を含めた地域の方々の社会への貢献意識が急速に高まっているように感じます。TV等のメディアを通してボランティアによる活動がいかに重要であるかを感じる方も多いのではないでしょうか。

おそらく多くの皆さんがボランティアと聞いて一番に連想されるのは、地震等災害時に活躍する「災害ボランティア」であると思いますが、道路に関してもボランティアで自発的に道路をきれいにしたいという方々が同じように多数活躍しており、数も年々増えてきています。

そうした中、我々道路管理者は道路に関するボランティア活動を行う団体を支援する取り組みを行っています。実施団体と道路管理者が実施区域、実施内容についての協定を結び、実施団体は道路管理者のサポートのもと、清掃等のボランティア活動を行うという取り組み（システム）ですが、中国地方整備局では、このことを「ボランティア・ロード」と呼んでいます。

我々道路管理者にとって、細部まで行き届いた道路管理行政を行っていく上では、このような地域の方々の積極的な参画は非常に大きな意味を持つと考えています。

ここでは、鳥取河川国道事務所におけるボランティア行政の取り組みについてご紹介させていただき、現場担当者の視点でとらえた、現状の道路のボランティア制度の有用性や課題について挙げ、今後どのようにボランティア行政を展開していくべきかについて述べさせていただきます。



※ボランティア・ロードとは

管理区間内で活動範囲や活動内容を決め、道路管理者がボランティア団体へ清掃用具等の貸与を行い、活動のサポートを行うものです。

当事務所では、ホウキや帽子を貸与し、定期的に（1ヶ月～2ヶ月に1回）歩道の清掃をボランティア団体が行うという活動が多いです。

2. 鳥取河川国道事務所の取り組み

★ボランティア・ロードを活用した鳥取河川国道事務所での取り組み内容について3つご紹介いたします★

- ① 花いっぱい運動
- ② 小学生の手による道路美化の実現
- ③ 経費節減対策

① 花いっぱい運動

当事務所では平成18年度より、管理をしている国道沿線に花を植えていこう、という事務所独自の運動を行っており、現在ボランティア・ロード参加56団体のうち、半数以上にあたる31団体が花の植え付けや管理まで行っています。

私事にはなりますが、私は約2年前に初めて鳥取へ赴任しているのですが、その際鳥取へ足を踏み入れた時の国道の第一印象は、「花いっぱいキレイな箇所がたくさんあるなあ」という良いイメージだったことを今でも覚えています。

中国横断自動車道姫路鳥取線の全線供用という大きな事業とも重なり周辺地域からの注目が集まる中、この取り組みは鳥取のイメージアップ、さらには国道のイメージアップにつながると期待できます。

なお、右の写真は国道53号鳥取市今町を撮影したのですが、花の購入費用から花の植え付け管理まで、全てボランティアの方々の負担で整備されています。道路管理者には管理のための費用は一切かかっておりません。



国道53号 新鳥取駅前商店街（平成21年6月活動）

② 小学生の手による道路美化の実現

鳥取県庁からJR鳥取駅を結ぶ国道53号若桜街道では、年2回、地元の小学生が歩道のプランターへ花の植え付けを行っています。

植え付け後は定期的に花への水やりを行っていただいております、一年中きれいに管理されています。花を植えた小学生からは、「自分たちが植えた箇所の道路を通るのが楽しみ」という声を多く聞きます。

この取り組みは、国道を学校教育の実践の場として提供し、子供達に道路への愛着心を持っていただく機会を作り出しています。「小学生の手による道路美化」を行っていることで、道路利用者へ道路を汚せないというより一層の心理的な効果も期待できると考えています。



地元の小学生による花植え（平成21年11月活動）

③ 経費節減対策

国道に花を植えて管理をしていくためには、水やり等の労力も当然必要となりますが、一番の課題は花の購入費用になると考えられます。道路の花壇は面積も広く、年に数回季節の花の植え付けを行っていくと、かなりの費用が毎年必要となってしまいます。

そこで、鳥取河川国道事務所では平成20年度から、過去年2回行っていた「季節の花」の植え付けから、一度植えたら植え替えの必要のない「多年草」の植え付けへの切り替えを推進しています。

それにより、花の購入費用は最初の植え付け時のみとなり、長期的視野に立つと大幅な経費の節減となります。

多年草を使用する団体数、割合につきましては、平成19年度は花の植え付けを行っている22団体のうち5団体(約23%)でしたが、平成21年度は31団体のうち25団体(約81%)と、着実に切り替えが実現しつつあります。



国道9号南隈交差点 (平成21年4月活動)

3. ボランティア・ロードの有用性

★ボランティア・ロードによる効果について3つご紹介いたします。ただ単純に道路がきれいになるというメリットだけではありません★

- ① 地域住民と道路管理者のコミュニケーション増大
- ② 地域の輪、地域活性化の創出
- ③ ポイ捨て抑制効果等の心理的働きかけへの期待

① 地域住民と道路管理者のコミュニケーション増大

ボランティア・ロードにより、地域住民と道路管理者が共通の目的を持って一緒になって道路について考えたり、一緒に活動をしたりします。ボランティア・ロードの積極的活用は、地域住民と道路管理者がコミュニケーションの場を持つ絶好の機会であると考えられます。

ボランティア・ロードに加入したことにより国土交通省を身近に感じるようになったとの意見を現場では聞きます。またそのような方々から道路に関する疑問や相談事を受けることがあります。地域住民と道路管理者との対話の場が増え、さらに地域住民から道路行政についてどう思っているのかを地元の視点で伝えてもらえる機会が増えることは、我々道路管理者にとって今後のよりよい道路行政の遂行にも繋がっていくはずです。地元の方とのふれあいの場が増え、双方の距離が縮まることは非常に有意義であると考えています。

(参考) 活動団体への意識調査

Q. ボランティア活動をして一番プラスになったことは？<平成20年8月調査、14団体から回答>

A. ① 活動の参加者が拡大し人の繋がりが増えた (29%)

- ② 来訪者からの評判が高い（14％）
- ③ 街の美化が向上した（7％）
- ④ 道路への美化意識が高まった（7％）

② 地域の輪、地域活性化の創出

ボランティア・ロードの活用は、①で述べた地域住民と道路管理者との繋がりが増えるだけでなく、地域住民同士の繋がりを創出し、さらには地域活性化の創出にもつながっているのではないのでしょうか。

近隣住民同士で共通の目的意識を持ってボランティア活動を行うことにより、地域の輪が広がりつつあるとの声も聞かれます。特に、当事務所管内でボランティア活動を行っている「商店街」に関しては、みんなで一緒になって道路を良くしよう、商店街を良くしよう、という風潮ができつつあることを肌で感じています。

③ ポイ捨て抑制効果等の心理的働きかけへの期待

ご存じのとおり、ボランティア活動は無償で活動を行うものです。地域住民の手によるボランティア活動により道路美化が保たれているという事実が広く一般に浸透していくことにより、道路利用者にとって、道路愛護思想の高まりやゴミのポイ捨て抑制への心理的効果が増大されます。

4. 現場の声

★現場担当者として働いている私が、活動団体からよく耳にする意見についてご紹介いたします★

（肯定的意見）

- ・道路に愛着を感じるようになった
- ・道路に関する相談をしやすい相手が出来た
- ・活動に参加することで近所の人との繋がりが増えた
- ・活動に対して周囲から声をかけてもらえて励みになる
- ・今後も活動を継続していきたい
- ・社会貢献のためにも継続したい
- ・活動中は恥ずかしいが、いいことをやっているという気持ちを持って活動している

（要望）

- ・質の良い枯れにくい花の苗を支給してほしい
- ・花の成長を促進するため、土を良いものにかえてほしい

（否定的意見）

- ・毎日の水やりや花の手入れが大変
- ・周辺の企業がやっているから仕方なく活動している
- ・雑草がひどいのでボランティアでは無理。何とかしてほしい



国道9号鳥取市南隈（平成21年4月撮影）

5. 今後の課題と対応策

★現在の課題と対応策についてです。今後のボランティア行政の進むべき方向性について検討します★

＜課題①＞ボランティア・ロードの基準が不明確
＜課題②＞ボランティア実務における意識の違い
＜課題③＞加入団体の増加とサポート体制の充実

＜課題①＞ボランティア・ロードの基準が不明確

ボランティア・ロードの制度により、清掃用具のサポートができます。しかしながら、どの程度の清掃用具をどこまで貸与しても良いかの明確な取り決めがありません。花の苗の支援も高価なものにならない程度というあいまいな基準であり、現場対応の際明確な判断がしにくく活動に支障が生じています。各ボランティア団体の間で支援内容の格差が発生する可能性があると考えられます。

● 対応策

社会の実情に合わせ統一した考え方でボランティア行政を進めていく必要があります。そのためには担当者会議のように実務担当者が定期的集まって勉強会を開催する必要があると考えます。担当者間で情報を共有することは大事であると考えています。

＜課題②＞ボランティア実務における意識の違い

積極的に活動に取り組んでいただいている団体は多数ありますが、中には活動意欲の低下した団体もおられます。

● 対応策

活動写真のコンテストを開催したり、事務所や道の駅へ最近のボランティアでの活動内容を掲示するなど、活動団体にとって満足感が得られる策を道路管理者が実行していく必要があると考えます。

＜課題③＞加入団体の増加とサポート体制の充実

近年の急速な加入団体数の増加に伴い、道路管理者が受け持つ団体が増加することによりサポート体制が手薄になるおそれが出てきています。

● 対応策

ボランティア団体の中の代表団体に一部活動の取りまとめを行っていただくなど、官民の境をこえた連携ができれば、担当者の負担軽減ができ、さらには道路管理者とボランティア団体との一層の一体感も生まれると考えています。

6. 現場担当者として心がけていること

★現場担当者として、私が個人的にいつも心がけていることについてご紹介させていただきます★

① 新規加入団体数の増加のために

- ・清掃活動をされている方への声かけを行っています。
国道を清掃していただいている方へ声をかけるようにしています。
- ・訪問説明による営業活動を行っています。
加入の相談電話を受けた場合は、個別説明に伺うようにしています。

② 既加入団体を満足させるサポート体制継続のために

- ・なるべく現地での顔合わせを行っています。
道路に関する相談を受けた場合は、早目の対応、そして現地を目で確認するようにしています。

③ 双方の協力体制・信頼関係の充実のために

- ・できる限り一緒に汗をかいて活動しています。
特に花の植え付けに関しては、植え方や育て方の指導を行っています。活動団体の自主性を阻害しない程度に、なるべく一緒になって活動するようにしています。
- ・フレンドリーな関係を築く努力をしています。
現場の声をなるべく多くくみ上げるため、定期的な訪問活動を行っています。また、フレンドリーにいろんな事を話しあえる関係を築きあげられるよう意識して活動しています。

7. まとめ

鳥取河川国道事務所管内ではボランティア・ロードが地域の方々へ浸透し始めており、地域をあげてのボランティア活動、またボランティア・ロードによる地域の活性化が実現しつつあり、地域の輪や広がりができ始めています。地域住民との協力関係を大切にしていくためにはボランティア・ロードという仕組みは大変有用であり、我々は今後も続けていかなければなりません。鳥取河川国道事務所では、「美しく、元気な、街づくり」をスローガンに今後もよりよいボランティア・ロードの体制を築く努力を続け、ボランティア団体の意見に耳を傾けながら、さらに地域住民との協力関係を深めていきます。